

（若手）農業者によるグループ化 およびグループ活動促進に向けての 方策調査研究

2025年2月21日
跡見学園女子大学
板垣青来 川嶋美月 長谷川ひなた

目次

- 3カ年のテーマ

- 今年度の取り組み

- └ ヒアリング調査
- └ グループ化事例調査

- 次年度活動目標

- └ グループ化戦略案
- └ 活動スケジュール(予定)

3か年のテーマ



3か年のテーマ

全体のテーマ：**若手(女性)農業者のグループ化と活動促進のための方策調査**

《仮説》

過去3年のもりおか短角牛PR活動→毎回**農家さんのボランティア**の助け

- ・ 牧野ツアー
- ・ 市内レストランと連携したフェア
- ・ 銀座のいわて銀河プラザや弊学学園祭での試食販売

① PR事業**継続**

② ボランティア活動から、**必要な経費を参加者から徴収する活動への変換**
のためには、**受け皿**となる農業者のグループが必要になるのではないか？

3か年のテーマ

《3カ年のテーマ・計画》

1年度目(令和6年度)「現状把握とグループ化の方向性の検討」

- ・ 農業運営の現状把握(農業形態、経営状況、課題)
- ・ 農業者グループに対する意向
(農家同士の交流の有無、グループ化についての意向)

2年度目(令和7年度)「グループ化に向けての戦略立案」

- ・ 農業者相互の情報交流機会の創出、情報交流発信ツールの検討・作成
- ・ 農業者の実態や意向に沿ったグループ形成(試行)

3年度目(令和8年度)「グループ活動の試行」

- ・ 継続した農業者グループの活動
- ・ ファーマーズコレクション(略称:ファマコレ※)の完成

今年度の取り組み

今年度の取り組み

①アンケート調査

②現地ヒアリング

③県担当者Tさんへのヒアリング

④事例調査

①アンケート調査

【2024年7月中旬～8月中旬】
「盛岡市 青年農業者意向調査」
盛岡市の若手農業者が持つ農業者同士の交流についての実態や意向についての調査
⇒6名の農家さんからのアンケート回答あり

○グループ参加者の意見

- ・ グループのメンバーは40～60代の男性が多い
- ・ グループの活動内容は「研修」が最も多い
- ・ また、グループに入って良かったことでも「勉強の機会の増加」と答えた方が多い

○グループ非参加者の意見

- ・ グループ非参加者は情報共有の機会や農家同士の関わりへの満足度について、「得づらい」「足りない」と回答した割合が高い
- ・ 兼業農家と専業農家、また、繁殖農家と肥育農家の間でグループに対する考え方や求めるものに違いがある

○グループ化のメリット

- ・ 農家同士の情報共有や交流の機会を得やすい
- ・ グループとして研修講師等を専門機関に依頼することが可能

○グループ化への期待

- ・ 行政やJAへの意見もグループとして申告
→信頼度や優先度の高いものとして扱われるかもしれない

○グループ化の課題

- ・ 30代以下の農家にとってはグループに同年代が少ない
→加入へのハードルが高い
- ・ 最終的には属性に応じたグループ内での細分化が必要
- ・ 消費者とどのようにして直接関わりを持つか、グループの広報活動に課題

②現地ヒアリング

【2024年9月2日～4日】

盛岡にて5名の黒毛和牛繁殖農家さんにお話を伺い、
2名のもりおか短角牛繁殖農家さんのもとで現地視察を行った



○グループ化について

- 農家同士での情報交換を積極的にしたい方と、そうでない方がいる
- 繁殖農家や肥育農家、専業農家や兼業農家の間で、認識や考えが異なる
- 既存のグループから取りこぼされた属性を共通点としたグループを求める声
- グループ化の利点として生産性向上を求める声

○農業経営について

- 餌や牧草用肥料の価格は高騰、対して子牛の価格は下落
- 市内では牛肉を食べる習慣が他の地方よりも根付いていない
→市内の牛肉の需要と供給が比例しておらず、厳しい経営状況
- 所得の低さや後継者不足が深刻
- 作業効率化のために改善をしたいが、予算(費用)がない
- 流通の見直しを求める声
→行政やJAとのより密な連携、協力や支援を求める声

③県担当者Tさんへのヒアリング

- 「農業普及員」の資格を持ち、県内農家への巡回指導をしている
- 県の女性畜産農家グループの集団「牛飼い女子いわて」など、女性農業者のグループ化に携わったり、女性農業者の相談に乗ってきた

ヒアリングの要点

1. 女性農業者の現状
2. グループ化の秘訣
3. 跡見生の関わり方

1. 女性農業者の現状

- 力仕事が大変

- 牛を引っ張ったり捕まえたりする力仕事は女性には大変
- 女性1人で40頭飼育している農家も
→ 子や近所の人の協力で力不足をカバー

- 仕事と家庭の両立が課題

- 若手女性農家(30~40代)は、家事育児と仕事との両立で超多忙
- 農家の妻の農業への関わり方
 - 妻も夫(男性)と同じように働く(トラクターに乗るなど)
 - 家事育児に専念、農業参加はほぼなし
 - 牛の給餌、ミルクやりなどを中心に携わる  多
→ 牛の様子を見る能力に長けている

2. グループ化の秘訣

- 農家さん自身の主体性が大切
 - 活動がうまくいっているグループは、農家さん自身が主導し意見を出して活動している
 - 学生や市・県職員主導ではなく、農家さんが中心となってグループのことを決める
- 活動頻度について
 - 活動頻度の多さとグループの継続力はない
 - 無理なく続けられる活動回数(頻度)、活動時期を相談すること
 - 繁忙期に配慮した活動計画作り

3. 跡見生の関わり方

- 分析能力の活用
 - 他県の事例を参考に、岩手では未実践の取組を行う
- 子牛価格が上がるきっかけ作り
 - 子牛価格が下がり続けている
 - 県内での牛肉の需要が低く供給が高い
 - 問題解決のための取組やきっかけ作り
(イベントの実施、SNSでのPRなど)
- グループのキーマンとなる人や女性農業者の掘り起こし

④事例調査

岩手県内・岩手県外それぞれ区分してどのようなグループが存在しているのかを調査
事例調査を通して私たちが理想とするグループに活用できるものをピックアップ

◎岩手県内

グループ名	(岩泉)うしあわせ女子部	(葛巻)牛飼い女子プエラリエワンス
種類	黒毛繁殖、短角繁殖、酪農など様々	酪農・畜産
設立年・人数	設立年不明、現在8名	2016年3月8日、現在27名
主な活動	・先進地事例視察研修や研究会、ユニフォームの作成、交流会、レシピ考案 ・小学校で講義を行い、「いわてきたかみ牛」を使用した給食の提供	・定期的な会合（仕事や育児に関する情報交換） ・視察見学、他地区女子会との交流や勉強会・研修会への参加 ・イベントの開催（牧草を利用したロールアートラリー） ・学生に向けた講演
特徴	◎岩泉地域に地域を限定、黒毛和牛農家や短角牛農家も同じグループに所属	◎酪農家と畜産農家の混合グループ ◎牛の話が出来る「友だち」を増やすことが目的
参考に出来る点	後継者不足や牛肉の消費拡大の課題に対する取り組み方	女性視点でのイベント開催

④事例調査

◎岩手県外

グループ名	北海道農業女子ネットワーク『はらぺ娘』	(全国)AGRI BATON PROJECT
種類	酪農・肉牛・稲作・野菜・園芸など様々	稲作
設立年 人数	2013年12月13日(当初30名) 現在、20～30代の女性農業後継者 中心に33名	2020年1月(当初3名) 現在、47都道府県にひとり以上
主な活動	・集合研修や勉強会・視察 ・農業経営や技術、料理・加工・食関係・婚活 などのグループ活動 ・情報発信(「はらぺ娘通信」情報誌) 年3回発行 ・LINEグループの活用	・クラウドファンディング →食育や農業に興味を持ってもらう ための絵本出版 ・絵本の読み聞かせ活動 ・田んぼ体験
特徴	◎他のグループには見られない 農業女性の婚活 ◎北海道全域でのグループのため すぐ連絡の取れるLINEを利用している	◎子供の農業離れの解決のための 活動中心
参考に 出来る点	女性農業者ならではの問題解決や、 LINE等を利用した連絡・情報交換ツールの 利用	後継者問題解決のためのグループ活動や、 クラウドファンディングから読み聞かせ までの全てを行う姿勢

グループの理想像

☆対象メンバー

盛岡市内の女性牛繁殖農業者

☆規模

3~4人からスタート
目標10人

☆目的

- ・農業に関する問題の解決

Ex)後継者問題、牛肉消費拡大等

- ・女性ならではの問題解決

Ex)子育てとの両立、力仕事等

- ・地域活性化

☆ゴール

- ・グループの認知度向上

- ・メンバー増員

- ・定期的、継続的な活動

グループの理想像

☆活動内容〈例〉

・勉強会・講演会の開催

農業に関することだけでなく、
経営など幅広い分野で開催

・定例会の開催

会に参加することで
コミュニティの結びつきを強化

・情報交換ツールの作成

悩み事ができた時にすぐ相談できる
プラットフォームの作成

・商品開発

牛肉消費拡大のための
オリジナル商品開発

次年度活動目標

グループ化戦略

●グループ化実現のためには…

- ヒアリング候補者を見つけるため追加アンケートを実施
 - ↳対象を女性農業者に絞る
- ヒアリングをもとにキーマンを見つける
 - ↳跡見生とのイメージが強く、グループ化に意欲的な方
- 女性農業者を集めて相談会を開催
 - ↳農業者のコミュニティ作りも目的
- 引き続き農業に関する知識の向上

活動スケジュール（予定）

ファマコレとは？

他の農業者や消費者に向けて市内の農業者を紹介する冊子。
生産物だけでなく農業者自身にも興味を持ってもらえる
親しみやすいものを想定している。

24年度	3月	盛岡追加ヒアリング	
25年度	4月	アポ取り、ヒアリング (1～2ヶ月に1回ペース)	ファマコレアポ取り (ヒアリングと並行)
	5月		
	6月		
	7月	盛岡での相談会	
	8月		
	9月		
	10月	グループ中心メンバー確定 →グループ化についての話し合い	
	11月		
	12月		ファマコレ作成

※2026年以降グループ活動本格化、ファマコレ配布開始

ご清聴ありがとうございました